

上島の文芸

双葉吟社【岩城】

春雨や積善山の緑濃し

涅槃像おみ足触れて手を合す

天気千し鮎子くわえ雀飛ぶ

老いてなお歩くたのしき朝桜

二人して満願終えし涅槃の日

お彼岸やただひたすらにお念佛

卒業歌悲喜こもごもを包みたり

目前をよぎる雄雉子の羽の美し

古籬髪の乱れや指の皺

花三分 親しき視野に生名橋

児島 泰

伊佐 幹男

林 七重

古林 幹枝

美濃部 妃苗

山元 征子

森本 伸子

森本 和佳

田名後 望雨

幸本 孤燈

第13回神奈川大学

全国高校生俳句大賞

(平成22年11月)
平成22年11月24日に行われた「第13回 神奈川大学全国高校生俳句大賞」(授賞式は平成23年3月12日)において応募総数10,080通の中から弓削高等学校3年生(当時)の浪切航太さんの3作品が入選しました。今後の益々のご活躍を期待しております。

《入選作品》

- ◎ 赤い羽ランドセルにだけよく似合う
- ◎ 着ぶくれて母の化粧が濃くなって
- ◎ 交番に財布を届け冬の虹

「広げよう 地域に根ざした 思いやり」 行動宣言

1. 安心して住み続けることができる地域社会づくりに貢献します
2. 地域社会での孤立・孤独をなくす運動を提案し行動します
3. 児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取り組みを進めます

5月12日は民生委員児童委員の日です。
5月5日(木)～5月11日(水)は活動強化週間です。

平成23年度 行政相談

行政相談委員の紹介(岩城地区)



4月1日付けで、
児島公尊さんが総務省から岩城地区行政相談委員に委嘱されました。

行政相談は、総務大臣から委嘱された行政相談委員が、住民の皆様の行政に関する苦情や意見・要望をお聞きし、皆さんと役場の間に立ち、公平・中立的立場で相談につてくれます。相談は無料で、秘密は厳守しますので、お気軽にご相談ください。

《各地区の行政相談委員は次の方々です》

光法 健(弓削)

児島 公尊(岩城)

片岡 敏子(生名)

東 修二(魚島)

行政相談日は、毎月広報の上島町行政カレンダーで案内しています。

愛媛県職員募集

愛媛県職員採用候補者(上級)試験を次のとおり実施します。受験資格、申込み方法等詳細につきましては、愛媛県人事委員会事務局までお問い合わせください。

【第一次試験日】6月26日(日)

■お問い合わせ先

愛媛県人事委員会事務局

TEL 089-912-2826

かみじま歴史探訪

シリーズ・史料が物語る郷土の歴史②

悲運の松山藩家老奥平久兵衛



生名は岩城等と共に松山藩領で、藩の最北端の島は、藩政上の責任を追及された藩士の「流刑場としての生名島」(『生名村広報』昭和三十年四月号、久保脩稿)ともされ、有志の研究も進んでいます。

江戸時代の中ごろ、藩の中枢で奥平一党は、藤左衛門派と久兵衛派の二派に分かれて争っていました。早く隠居していた元家老の奥平久兵衛(一七〇六～四九)は、享保の大飢饉(一七三二)の際の責任を問われて失脚した藤左衛門のあとを受けて家老に復職しました。五代藩主の松平定英の没後、幼君の定喬が第六代藩主となった直後です。

その久兵衛も、享保の大飢饉後の財政再建のため専売制度を強行し、領民の逃散や一揆が頻発し、久万山騒動(寛保一、一七四一年)では領民が隣藩の大洲領に逃げ込みました。『垂憲録拾遺』(藩士竹内信英編)には、「不相応ノ饗応ヲ受ケ：賄賂ヲ取り：下賤ノ者ノ恨ミヲ生ジ、此ノ度ノ久万山騒動ノ儀モ出来：遠島申シ付ケ候」とあります。



奥平久兵衛の石像(正福寺)

この際、先に生名島に流されていた元目付の三浦正左衛門は、許されて復職します。でも、子息の造

酒之助(みきのすけ)は、享保一八(一七三三)年に病死しています。『いきなじまといふところ』(森本正勝著、昭和四十六年刊)。その墓碑も宮崎禪輝住職や村上寛仁元教育課長等によって確認されましたが、墓碑の戒名は判読困難です。『郷土生名』(福島良忠著、昭和二十九年刊)には、「靈照院華庭素雪禪童子の位牌や墓が正福寺にある」と記されています。

三浦正左衛門と入れ替わって生名島に流罪となつた久兵衛は、九年後にこの島で生涯を終えた模様で、『贈残録(かいざんろく)』(儒者の大原観山編著)の寛延二(一七四九)年十月の部には、「万端相慎ミマカリアルベキ処、近頃慎ミ薄ク相聞キ候ニ付キ(中略)十三日：伊那左仲・下村七兵衛ノ者共昨夜寅ノ刻前ニ生名島へ着船、当朝、配所ヘマカリ越シ、奥平久兵衛殿へ：御書付申シ述べ候処、異議無ク御請ケコレ有リ候、然ル処、如何(いかが)遊バサレ候や、自殺即死ノ旨、又家来四人：差シ戻シ：」とあります。

一方、この『贈残録』には、続いて「兩人(伊那左仲・下村七兵衛)奥平氏ノ事ニ付キ、生名島へ参ル節：下村如何致スベキヤト甚ダ心配致シ候処、伊那申シ候ハ、永ク御安堵(あんど)トナレバ別儀ハ有ルマジク、サシ知レ候儀ナリト申シ、終ニ申シ合セテ奥平氏ヲ切り殺シ候：」とあります。

「自殺」と「切り殺シ」のどちらが真実なのでしょう。島の伝承では、「首は松山藩に持ち帰り、胴体は正福寺の墓地に：戒名は静然閑居士」で院号は付けられていません(『郷土生名村』)。

事件当時の生名村の庄屋玄祥も、久兵衛事件で厳しい処分に遭った模様です。玄祥の子孫で生名村の最後の庄屋(のち村長や愛媛県議にも就任した)村上寛治は『伊予国越智郡生名村村上家由緒之事』に、「玄祥在勤中、当国家老奥平久兵衛乱ヲ作スニ當リテ、庄屋役免、数年ノ間咎(とがめ)ヲ被ル：」とあります。この「久兵衛乱ヲ作ス」の真相は記述されてはいませんが、『松山叢談』第二巻の寛延二(一

七四九)年十月の部には「近頃島外へ密々文通：」とあるので、ひそかな情報交換に玄祥庄屋が何か協力していたのかも知れません。

流罪中の住居は、岡庄という集落の丘陵上にあったようです。庄屋の役宅もそこにあり、その役宅内であつたとの推測もあります。でも、それでは家臣の同居は困難で、独立した配所があつたのではないのでしょうか。岩城支所(史料館)には、「寛保元(一七四一)年 越智島生名村御流人御居宅ナラビニ諸道具代銀積帳」や「寛延元(一七四八)年 生名村御配所矢切御普請入用帳」等が保存されています。

一連の事件を「実録物」(小説)にした『伊予名草』の久兵衛は、参勤交代の帰途、乗船を岩城港に入港させ、この島の本陣(三浦邸)で藩主の暗殺を計画(入港中止で失敗)したお家騒動の主人公にされています。久兵衛はそのような人物だったのでしょいか、島の伝承では、流罪中に子供たちに学問や剣術を教えたそうで、今でも受験生たちが墓参しています。また、正福寺の境内には彼の名のついた銀杏の巨木が島人の馴染となつています。

一方、松山市内の寺院には久兵衛の墓碑や位牌が現存しており、戒名には「光冷院寒林道英居士」(寛延二年十月十三日)と院号が付けられています。また昭和四十五年に生名島の墓地に建てられた久兵衛の石像には、奥平宗由の名が刻み込まれています。『贈残録』に記述されている「倅(せがれ)小繕卜娘兩人」の子孫なのでしょう。



久兵衛銀杏

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授 村上貢 稿